

2. めあてと読書記録

① めあてカードと振り返りカード

子ども達の様子をみるに、日常の読書習慣において個人的な格差が目立った。朝読書など与えられた時間に読むだけでなく、読みかけの本を傍に置き、一人ひとりが自分のめあてをもってより主体的に取り組めるようにしむけた。

月毎に「読書のめあて」をカードに書き、常時意識できるように図書室の廊下に掲示した。毎月の読書記録と共にその月のめあて達成に応じて評価（金・銀・銅賞他）をし、振り返りカードに記すことを通して自分なりの進歩が意識できるようにした。どんな本を読んだか振り返ったり、賞として認められたりすることで読書量はぐんと増えていった。



←毎月のめあてカード。
図書室廊下に掲示。自分のめあてを常に見ることができる。



読書の記録ファイル→

図書委員会が全校児童分の背表紙と名札を貼って準備した。これに、毎月の貸し出し記録、めあてカード、読書の賞など保管。常に自分の読書の様子をふり返ることができるようになっている。



↑→毎月のめあてや読書記録、図書委員会からの賞状、読書ゆうびんなど、読書・図書館に関係のある記録がつづられている。





←本となかよしランキング：
毎月貸出し冊数と、合計ページ数のランキング上位10名を掲示・発表。友だちと競争し合って読む子もいる。

② 各学年必読書の設定と必読書カード

自分の読書のためをもつなど多様な工夫することで貸出し冊数は司書配置前の4～5倍ほどに増えたが、読む本が広がりにくく子どもが多くみられた。

そこで、子ども達の読書の幅を広げ、質も高めていきたいと願い、各学年の必読書を選定することにした。教科書に登場する作者の本、学習関連の本、本校研究テーマに関する人権・命の本、総合学習との関連、子どもの興味関心等々から、各学年基本の10冊を「りんごコース」として選定した。基本コースが読めるようになれば、次のコースへとレベルアップさせていきたい計画である。選定した本には、選定マークを貼り、図書館の「必読書コーナー」にまとめておき、すぐ手にとって読むことができるように開示した。全児童に必読書カードをもたせ、10冊読めたら、図書委員会発行の達成賞を渡すことにした。

また、掲示板にりんごの木を設置し、に「りんご（達成者の名前、達成年月日）の実」と「心に残ったおすすめの本・保護者の感想カード」を掲示し、本が広がっていくようにした。

↓必読書コーナー。



↑各学年の必読書一覧表

掲示板下の本棚には、必読書コーナーを設置。どの本がどの学年の必読書か一目で分かるようになっている。



←必読書が探しやすいように、シールを貼った。



次は、どの本を読もうかなあ。掲示パネルを見ながら本を探す児童。

↓りんごの木

りんごコースを達成すると、リンゴの美が掲示される。自分が読み終えたという満足感を味わうことができる。

↓達成者には、一番心にのこった本を紹介してもらおう。また、カードと賞状を家庭に持ち帰り、保護者に感想を記入してもらおう。保護者にほめ、励ましてもらうことで、より読書に対する意欲が増すことにつながる。



→必読書カードと図書委員会発行の達成カード。図書委員が、賞状を作成、消しゴムでオリジナルスタンプも作った。

